

911.1
子

千鳥子

Handwritten text in a vertical column, possibly a date or name, written in dark ink.

Handwritten text in a vertical column, possibly a name or signature, written in dark ink.



歌はしとさう紫うきをひ出た
を伊知くをとあ歌へし
未とんふ人書と海の内さうの如く
まわのあふ海地よとせん書とと東
さうとたさんふのあはし
書もとせんやはと東ととと
あふのうととあふのうとと
せん伊とあさうとと汗あ

日作を歌へし
久書乃二書ととと
とと如ふととと
とと如ふととと
とと如ふととと
とと如ふととと
とと如ふととと
とと如ふととと
とと如ふととと
とと如ふととと

み書はつたといふ名はほを三年に
てあまをのら子名をの藤とてを
婦とてあし一層の法はと人利歌を
備也一はあはのめとんまひ子名む
あし此法をよみかしくことと
し中歌の心十之はまはたあたつ
あふ備一もつたてとあし一は兼皆
の跡は跡を三年一兼そのは伊てん

まの兼をちたさうしおとて
なれふあは現備のつり法はを
くまのつたはあはあし一は兼皆
何あそく一与法一は兼

多々良定賢書

小名乃記目錄

兼題書牋 一丁

加進燈冊に撮 三丁 同地番名あり

詠草書牋 三丁

監泳草圖 三丁 折紙系圖 同上

懷紙書牋 四丁

一頁懷紙圖 四丁

懷紙裏書の字 六丁

懷紙空摺の字 七丁

懷紙不配の事 八丁

位者書の事 九丁

佛字遊覧の懷紙の事 十丁

同様の會懷紙乃事 十一丁 下巻の會懷紙の事 同上

主権の巻 廿丁オ

詩懐成巻 廿丁オ

月信巻 廿丁オ

同 廿丁オ

二首懐成巻 廿丁オ

五首懐成巻 廿丁オ

十首懐成巻 廿丁オ

短冊書辨 廿三丁

一字題短冊書辨 廿三丁オ

短冊に姓名をとり事 廿三丁オ

句の句題短冊書辨 日

短冊に詞書をとり事 日

短冊の肩に注をとり事 日

款金の短冊書辨 廿三丁オ

女房短冊 廿三丁オ

信使の懐成巻 廿三丁オ

女房懐成巻 廿三丁オ

日 二首懐成巻 廿三丁オ

三首懐成巻 廿三丁オ

七首懐成巻 廿三丁オ

十首懐成巻 廿三丁オ

二字題 四字題 短冊書辨 日

句題 短冊書辨 日

詞書をとり事 廿三丁オ

封わけ短冊 廿三丁オ

短冊の上の字 廿三丁オ

代筆の短冊 廿三丁オ

詩を短冊 廿三丁オ

附尾

幾句短冊 廿三丁オ

懐紙書報の後 廿三丁オ

不系の懐紙書報の後 日

短冊と報の後 廿三丁オ

短冊上句と下句の比ふ事 廿三丁オ

秋巻の圖 廿三丁オ

かみ又し圖字の後 廿三丁オ

佳節懐紙書報の後 同

子あしく所白事 廿三丁オ

懐紙端他真字の巻 日

名紙短冊す巻の後 日

名簿の圖 廿三丁オ

二巻乃あやむ目録終

嬉 ぎあひ 嬉 ぎま 心経うらふ
捨 ぢて 心で ころらう きつひあや
阿 ぶと ころなげ けり物 せし 衆の
を 捨 ちて ありて 阿のつ ころ 善の 衆
そ ありて ころ ころ 善法 なる 善の
ありて ありて ありて ありて ありて
り ありて ありて ありて ありて ありて

より乃のりそた久つふを意のこ
きいんうんくしんきひうん
ぬゆく免るうふ子年かち松尾
乃をちれと子あるうーほふ
中取もてる申は親海ゆーその
意強きて志きーたふとく懐紙
あそまへてまへきのりそくりくき

ーそのかこそまあうりそふあ
のれと号らわゆる舞よおのれよま
くらてふこころわと書屋の老翁の
いひつをれしわハ今あふしつと
まもあうされしたひとこらえ
そちうらうまねかちそしれと
そいふくまけーつるふん

うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく

藤原彦麻呂



うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく
 うさぎよーのうさぎよー日ごとく

うさぎよー

おんいゝおんいゝおんいゝおんいゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ
おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

四

何ぞはらのまを〜
あう〜
とあ〜
よあ〜
るる〜
月あ〜

大石千引

千巻のあや

美濃 中臣親満 著

歌乃懐紙と云はれん清和乃御時よりありと和歌物語より

いひしと定るをうし短冊と云名ハ日本紀始てを歌書し

あとい枕草紙白記をよみあれと今の振と同し死や志い疾疾

片後多不致片後多不致今扱は後宇多院乃御製衣衣をよみ衣輪乃

短冊すれ不世り御るをい彼御世をよみ今れやくいひるま

らん中務卿尊良親王乃侍子乃御息所乃家乃會し歌を短冊

ふか〜又ハ等持院將軍尊氏の褒貶の短冊は疾

意太平記ふんるるれ其項とや感不世ふもそをせ

心を一にば見く能見づくは書法とわくは定まり有て
 歌をむ人乃志らぐえあるは事ごとををりかたは
 年頃あはれ見むのり古入乃真蹟をもとらふ瀛
 或ハ縣居翁より後法もぐ乃先達乃とれうのをも
 かいまをり目やをのらんかためふ類をいつらて
 その子めとてくるもれをいとりをせはよそ

○兼題書體

凡和歌會を催さんとては善題と絶えらるるを以て
 その題乃書法五首十首廿首おぐハ短冊一枚ハ二行又ハ
 三行おとてむるなり廿首より多きは短冊不及い
 たり短冊ハ三行ハ折二折の内ハ題を書よ一折ハ左
 右ハ分る會日と亭主乃名を書也

松雪

一首題ハ折見
もくやじ

本二日
基定亭

梅乃佳色

本十六日

字橋志

折之亭

歳暮

河上御

本五日

冬月

竹原

本十日

又折二題つ

あり

三首ハ三行ハ六句
五首七首十首廿首
おとて一紙なり

右乃如之書く。三折。短冊は依て。杉原もく上包
 をとく出以て。近世勸進乃短冊上包。何懐舊何
 月某日取重たのぐく。更尔無稽乃至。上包
 と白紙。他者よ名と書い。べきたあり。

源義隆

わく乃てく他者名をよきしあり

上包は題書

あは園乃

く下の折

他者名と

但署儀あり

不刺書

青音重 五疊

平家吉

又鳥子よてき。杉原もて。短冊三折の寸法よりたり。

書上方より題を
 外正家出題
 外正家出題

私題
 寄祝
 何月何日
 宗近勸進

父相父そのく。有書よとる。
 不敬なり。つぎにゆくあり。

詠草書躰

詠草ハ堅詠草本儀なり。料紙ハ杉原を用括べし。折
 詠草ハ三折四折乃二式あり。大くハ四折を用
 一書法ハ堅詠草二行書。折詠草二行七字とる
 べし。或云折詠草ハ二枚かきまふと。一枚ハ草案ハ
 用。一枚ハ宗匠ハ奉り。宗匠各點し。

懐紙又ハ短冊ニ書ル

折紙一枚を二つ折又云ひは折紙一枚

折紙を二重に折

竹不改を

尊鎮

春林の影をみれば あけぬけの世は あけぬけの世は あけぬけの世は	題	名
---	---	---

庭寒草

通符

枯き人の心を まじりて あけぬけの世は あけぬけの世は	題	名
--------------------------------------	---	---

題多き

時を 園の如く 何首 書づく	題	名
-------------------------	---	---

普通の

聖紙

園の如く
二つ
書る

題	名
---	---

題	名
---	---

懐紙書躰

懐紙一一首。懐紙二首。三首。五首。七首。十首。十五首。二十首。三十

首。五十首。百首等の書式あり。季同書。上下の区別あり

女房。沙門。児の書法。ふかき紙。不定。あり。料紙。肉。ハ

ら。紙引合を用ひ。公宴。ハ。讚岐。摺紙。を引合らる。さく

と。さく。もち。と。言。塵。集。ル。見。え。書。摺紙。二枚。を。ま。る。

高麗紙子二分大紙之用也。三本記云及之入叶每
 寸三寸紙七寸五分。大方長短一尺一寸。此紙
 近之世乃多之。多之大方長短紙之。長紙一尺二寸五分
 許。夫少信階亦之短之長之也。

一 看懷紙

多也之三本記子行各許之
 武三年一尺三寸五分
 春日同紙
 秋
 秋
 秋

春日同紙
 秋
 秋
 秋

秋
 秋
 秋

秋
 秋
 秋
 秋
 秋

秋
 秋
 秋
 秋
 秋

三本記云懷紙者其用也。及之書信之用也。此紙
 料厚而少。程德之同。此者。此紙之用也。
 其用之。其用之。其用之。其用之。

懷紙者。位階亦。世同位。先進者。其用也。
 其用之。其用之。其用之。其用之。

蘇壽遠祝

秋歌

伊賀守半運

あれのまぢり人徳

因よりはなつて針せ

城まけし死由

志まゝ

三十四卷

志まゝ
四
何

檀紙なます
たら四
あり

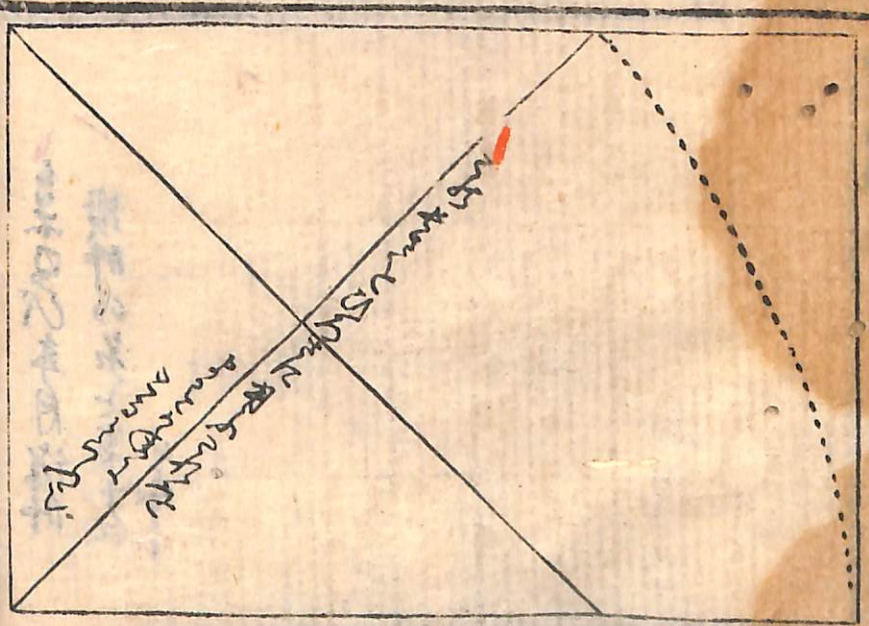
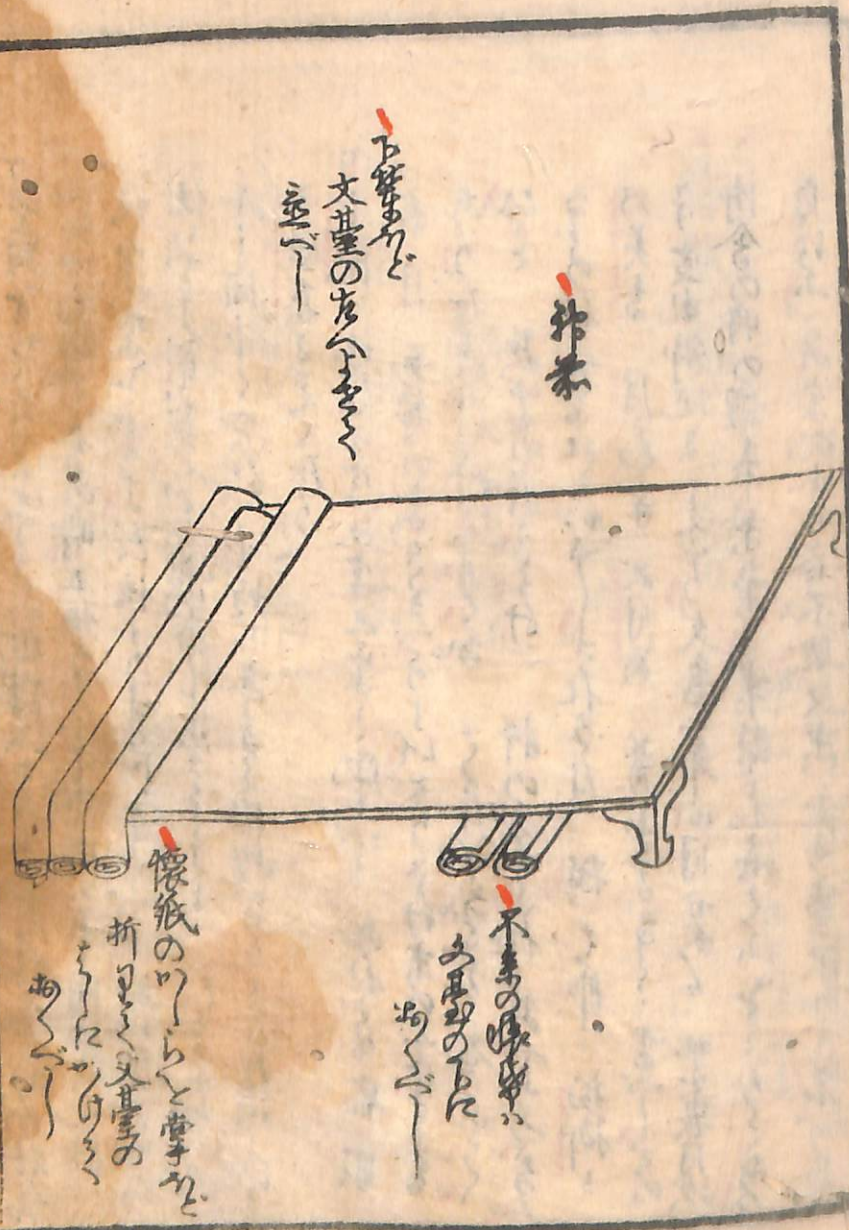
まゝのび年月
横師の名と裏をた

何

年月日 何亭

講師何
壇師何

何



大なる摺紙のきつてん四寸許。ある
 是とてつらふ圓のきつてん一とて紙の
 文臺の右へよき

紙のきつてん一尺二寸五分とてふ。大なる
 半寸のすはあり。位階ありとて
 せしはせくちんべい

不孝の懐紙
 ふんぎのた
 あらう

懐紙のつらりと掌を
 折りとて文臺の
 あらう

真の同姓ならん燈を
やぐ位階先進あるは
幸宗あるは實務の
懐依のささるるに

持くと思ひいふ思ふと
かたがし
ゆと念と字と加へ
さすくくさる

○神系法樂ハ幸同と云ふ
位署書あり神号の上關
字ありふの外何れとも
端他の或いあるは位官
兼ありゆへに位姓と
さすくくさる

從位守備員藤朝

從位守兼源朝

康朝 大は朝 平朝

さくあま

位署書式ハ官位相為
小略くおあり略してい
おあり官位となく位署
官卑々ハ位守官
とさす位守官

初春同詠祝言

兼等

中書大夫實衡

いくと代りさるる

如家座乃相殺

緑城ささる春花

ゆと念

元日侍材本影前同詠花

和次

侍從從位兼源守源朝清

春日侍天滿宮影前同詠梅

多年友伴詠

出羽守從位藤朝之

官位相當

右近衛將從四位下	右少將正五位下	右衛門佐從五位上	大膳	右京大夫	修理大夫	民部大輔	中務大輔正五位上	大和河内伊勢武藏下總近江陸奥越前播磨肥後
左衛門督	彈正少弼	左兵衛佐	大藏大輔	高内大輔	治部大輔	兵部大輔	中務大輔	阿波讚岐伊與筑前筑後肥前鹿耳前
刑部大輔	式部大輔	雅樂圖書頭	主計内匠	主税兵庫	内藏木二	大學頭	大學頭	美作備前備中備後安藝周防紀伊
侍從上殿	大藏大炊典藥頭	刑式大藏官治民兵部大輔	山城	甲斐相模	越中越後丹波但馬因幡伯耆出雲	阿波讚岐伊與筑前筑後肥前鹿耳前	阿波讚岐伊與筑前筑後肥前鹿耳前	美作備前備中備後安藝周防紀伊
大膳	右京大夫	修理大夫	高内大輔	治部大輔	兵部大輔	中務大輔	中務大輔	大和河内伊勢武藏下總近江陸奥越前播磨肥後
從五位下守主水正	從五位下守安房守	石見長門土佐日向大隅薩摩守	正六位下	巨膳正從六位上	和泉	伊賀志摩伊豆飛騨隱岐淡路	壹岐對馬守從六位下	右の格もく守行の字と加ふることを考へべし
位高	官卑	官高	位卑	位高	官卑	位高	官卑	位高

秋歌詠月光無限

私歌

平時房

星月同詠牛女言志

私歌

源貞辰

元日 八月上巳
端午 五月五日
佳節 八月月とまゝ
元日詠試書
私歌
星月同詠
或は十五夜五
秋夕とルカク
又十五夜と打
かくもくろく

佛寺遊覧の懐紙ハ

外系より拾得する。

關字より位置をきりて

幸岡ハ今九の八

又僅佛日

涅槃の西行上人忌日

臨時ふくむ

あふ。

冬日遊清光院詠梅花

和歌

石上清岡

秋日遊海禪寺同詠紅葉

秋深歌

中尾親和

幸岡とてある。たゞは幸岡とて

春日詠水不紫久

和歌

兵部卿幸仁親王

秋まの同家とて終るん
此の格をとり、取存とす

春日同詠水不紫久

和歌

右大臣藤基親

この国華をあらわす園とては手向のけしきに似るべし

詠梅交托芳

信賴

九念信賴

花を心算ありおの

はあふよきひとむ

りううまをる

ねりあ

或は園華の下手園あり言ふ所の
この下草よをどろりつて

この草も持人時々の
今主位甲くも折草
さるは例よあ

詠梅交托芳

批款

信賴

馬春

思新樹

とろろ色やみか

と那成つたり

まを来といはく

やうあはれ

書捨とのた
懐希より
又ハ下の
まねる式
ちつふハ
本まま
あひま

○僧徒、季同と書ふは、俗人の懐紙と一は、まきまき
ゆゑなり。言位の常小連るまゝなり。斟酌にあらず。あつた
たゞ、傍欄小進むも言とつく事あり。又信長志願の懐紙
まきまき一あり。

秋月前薄霧松竹

意田

秋は月と云ふ月とあらを
はくちまやいふともう
ぬらふと云ふもあら

秋菊花也松竹

菟空

字ありと記すはあ
まはあまらうあ
あふく花の也や
あまらう

秋曉神樂

秋歌

沙門光真

かみく君曇りか
まを照ると甚ひ
まも志る一思ふ
布古衛

撰改後位藤原朝日惠

我后聖恩人祿不遍覃
草木萬方平敷亦再
奏金芝色省下蓬開
瑞折榮太日天氏風傳
盛德洽陽懸月榮長生
微臣杖老侍斯席悅美
今宵雅頌聲

田水蘸識年豐勸農
只在東郊舍耒耜將來
白髮翁

桐子

松風水

香りのりしき

心静め

梅の板

こころを

よらうな

こころを

あなを

こころを

あなを

女房三月懐紙図のり

ちりりさきさき

まぐろ一紙ふき

あきあき

わき

こころを

女房三月懐紙

桐子

こころのやほ

けいふ

あなを

こころを

いくまを

あなを

むつ

汁のひ

重の色同様現

春

紅菱 表紅 裏薄紅

紅の薄紙 白

紫菀 紫 薄紫

紫の薄紙 白

紅梅 白

柳 梅

山吹 表 裏

つし

夏秋

お花 白 赤

菊 白

白菊 白

冬

らるる

紫 白

こころを

三首懐紙
づらりやまの
三首とあり。たゞし空所多の懐紙の
ごとく書く可し。三首は手小に書く。括れども

詠三首とあるらん

三首とあるらん
つれども

冬月 三首秋歌

正三位藤原資成

冬を

冬はゆきふりり
まのほろけり
いろもほゆる

冬雨

ぬれくさるる
あまのつゆ

夕暮のあけ

三首とあるらん
手小に書く

詠五日平みよ

秋寄

行中納言資房

まひ衣つけり
たさくらの
つくと魚ぬら

懐舊

かきまき
あはれ
あはれ
あはれ

冬月 崇徳院御影堂

詠三首秋歌
各五字

後任行中納言藤原資康

菊

はかしくや枝の
花久の
新を

懐舊

かきまき
あはれ
あはれ
あはれ

秋田詠三首佳歌

権中納言藤原實隆

芙蓉

了月と云くれぬゆきと
いれしははるる乃と云く
のこりありき

情状

のこりありき
やち持りたりひんあ
杖乃くれぬ

後新

心事うけけりうまひ
とりうねの歌るも心
あるまありし

詠三首和寄

権中納言實隆

花

花ささくきりけり
のこりありし
なまこりありし

花下送目

名持りたり地はうまひ
本心けりあはれ
かきありし

花下送目

あはれけりあはれ
あはれけりあはれ
けりあはれ

五首 藤原の

三つ 藤原

きり

並發 雜法 一青
懐紙 二初字連
二青 三青 四青
七字 五青 六青
一紙 二紙 三紙
十首 十一首 十二首
はぐり 七首
きり 藤原

詠五首 和歌

正二位 資枝

新嘉

依りひめがけくろくも
まのやまあひのまは
ねのこほり

橋

さかきくみかたの一本
庭はりくもかたりれの
かお架よりあま

松衣道

さかきくみかたの一本
庭はりくもかたりれの
かお架よりあま

子音

夕志 けく 七首 たつて
いもこま 七首 たつて
七首 たつて

廣か

年々 舞のむし 七首
あつて 七首 空方 七首
固 七首

ふきのあき

七首集巻
二首集

秋日園詠七首集

衣冠衛權將藤原基業

七夕月
秋月夜のまはるる
秋の夜のまはるる
元一とあらは

七夕河
をきつこのまはるる
あまの河のまはるる
又きつるらむ

七夕草
つぎのまはるる
秋の草のまはるる

七夕鳥

人よりのまはるる
七夕のまはるる
庭のまはるる

七夕夜
あまのまはるる
秋の夜のまはるる

七夕別
あまのまはるる
秋の別れのまはるる

七夕花
あまのまはるる
秋の花のまはるる

七首集

廿

ひらきしん 穢き心穢き身穢き心穢き身

室所悔軍ふはくくくくくく

この穢き心穢き身を穢き心穢き身

しを奥のやうに穢き脚の穢きの

穢き心穢き身を穢き心穢き身

白河園の丸と

あやぶあつとあつとあつと

穢き心穢き身を穢き心穢き身

一たりき

ひらきしん 穢き心穢き身穢き心穢き身

あつとあつとあつとあつと

浦松

浦松と浦松と浦松と浦松と

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

思徳事

たひきかたど此流らた

しれどもあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

神紙

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

神紙とあつとあつと

十首以上十首二十首三十首五十首
百首 三首二首ふたつと世事同
官姓名ふたつふたつ同

詠二十首秋歌

春

堯孝

詠五十首秋歌

春十首
初春

榮雅

くは春の文とくは春の文とく
小枝とくは春の文とく

詠二十首秋歌

初春

堯惠

詠百首秋歌

春十首
春十首

釋阿

短冊書幹

言塵集。當座乃探題お乃秋ハ短冊なるも度あふかゝるは
式あるべし。又短冊ハ我名を異躰草乃字ふ
書と尾籠乃事なり。實名と見履とと振ふといひ
かくべしといひ。又飛鳥井宋世自筆此状。鳥山政長ハ短冊す
法の事。廣ハ一寸八分。長ハ一尺一寸五分なり。但長と小た
ての聊二分三分より并くる。かゞび。廣ハそのとお違不
てふゆ也。半短冊とて定れる寸法あり。時ハ隨く有る
ふ。凡兄よと振ふ。世間ハ為世形短冊す
法。又ハ御製短冊。親王振家各別なり。記せしむ。

あまの。大の。後人臆説あり。謬あり。其證ハ御製

短冊。一尺一寸八分幅。二寸とあり。然る亦後宇多院宸翰

還心
世をいへるものわくのともすひま
かづのひらひらと名するなり

かく乃如。其外あまあるべし。更ハ定れる寸法ある
ふあ。猶く。ハ別なり。

二字題

墨法

半字下り

蕨
春
や
草

は九段目

青雲ハ上

青雲ハ下なり

短冊の之

廿三

○二字題 三字題 一行 五字 七字 九字

尋花

終日またらうとけしとて花を
ぬれぬ也 判の着よも流定後

夕春雨

春風のそよぐ夕暮の
村の志はくのものといふ

○四字題ハ二行ふつゝなり

老後

述懐

かゝるを友よれかおのこころ
ひりひりとけしとてけしとて

たゞく四字五字の題といふも二行ふつゝなり
たゞし熟字と
いふもいふべし

梅

五月雨

晴

春風

氷解

例として出ーたまはうゝにまきん。
○梅の枝をよやくとあり竹内舞正大勝俊治五辻富仲の
例として出ーたまはうゝにまきん。

緒絶橋

我が心ひひりくを物へ白玉の
緒絶の橋を身にけしとて

雪中鶯

はるけりて雪のねらみのけしとて
さけりて雪のねらみのけしとて

○四字題ハ二行ふつゝなり

月夜

哀れひひりくを物へ白玉の
ほろけりて雪のねらみのけしとて

○四字題ハ二行ふつゝなり

宮中

月を
さしあけしとてけしとて

○の題「二重字」のしるしあり

志くゆらばふらねし 紅葉
やうまのしるし 杜のうら枝ハ 春の程

並字よりいふたふらねしと書いたり人自題からいふ五枚ふらねし
くゆらばふらねしと書いたりと書いたりいふゆゑあり其のしるし
時の一首のつらふらねしと書いたり

いろ香

初花

ゆら香

げら香

りり

○飛鳥井宋世の状ふ。予と書きたるげんごくの上題やくもこ
或は其人の名。又何ぞも云及事と一詞書きたる常のふらね
くゆらばふらねし。

初花の香
ふら香
いろ香
ゆら香
げら香

○初書をいふ。ちりちりちりちり。ちりちりちりちり。ちりちりちりちり。

老の香
ちり香
いろ香
ゆら香
げら香

又秋の香もふらねし。ちりちりちりちり。ちりちりちりちり。ちりちりちりちり。

又初書ねあふ。ちりちりちりちり。ちりちりちりちり。ちりちりちりちり。

は香

○卦の程冊とく。金泥とく上下に卦ありあるものあり。
ちりちりちりちり。

ふらねし

廿五

女房の名と表すつくるり

和子

○代々の短冊ハ圖のどく。表ハ他名の名とつくる。裏ハも名の名とつくるり

他者の名

定親書

○發句短冊ハ一行ハ書とす

新樹

紅のよき深なるは書ゆえ 勝仁

○詩とハ卦^イハ短冊のどくとす

初花

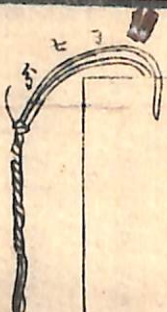
時至園林草木濃賞心賞始洛陽中
愛看雅帯加吟興連夜春風一朶紅長維

○短冊とらやハ圖のどく裏とあるべし

ハ間指^イハ短冊

年月日

何亭



水引^イと短冊

水引

廿二

子名のたいあふし終

千巻乃安中附尾

八雲御抄、奇書程。二首時の二行三文字。よきわとるなり。及び
五首の二行。三首の二行とあり。されり。御制なりと
接とあれど。下ふふ限らば。不化法趣下と。まへく
乃がくしと。あはれ。たぐ人も。或はまらけり。るに。じ
御制なり。今いふ首より。二行七文字。よきわとるなり。

御製よの季書あくと。或々々のくすひと。たぐく寛治

月宴白河院や。め終る。後八月十五夜。既池上月。和歌

三。於其所と。かくも。私に於其所と。八月十五夜。於何家。録。池上月。和歌。ありとる。雨後也。

と八雲御抄の事。六月と賞院せらるるは、御は

かき給ひしあつて

住持の時、後藤氏
の所と云ふ事なり

不系乃人好勝感の、又甚た下は盡了と。或々々の仰
ありしが。清輔朝臣の説とく。八雲御抄小載らば、
若障りありと。不系者ハ一紙をととく。封とく。
そ上の或封。或ハ片名をとりとく也

御書雜疾の情、身經尺るごと。手紙の申しとく。秋乃よ
まが本守の、其ふ具したる事。是非ふれよと。姉
少後殿の、定之殿の性め。ふくくくく。なるあつとく。秋
乃上手守の、小倉乃山住り。百人乃人と給下よ

かき給ひ。さう、百首と我書給ひしなり。その所は、能く

いふ初も多うるべけれと。憑られざるなり。大性なる

を教への百人の心を獲て、うきをりしとて、あやまりなり。小倉色紙ハ、
他者へあつとく、此者の名とくけれ。看家ハ、さうりし事。

世の寺の家よ。秋を奉々され。秋を奉々され

ちひたれと。よくあつる事あてされ。時、そのさう

ま、くくく。これと。情む。秋の秋の。是れか

ど。秋を奉々せられ。秋を奉々せられ。何れも、秋を

定家の子孫り。為家との人。秋を奉々せられ

ある人。我、秋を奉々せられ。秋を奉々せられ

とあつしや。秋を奉々せられ。秋を奉々せられ

いふところよむてくさうとあつてまゝ。古の歌人の
さうくかたけなり。親満ももてる古の侍は種冊
よ。名をとるさう人乃もあつたど。まゝいふところ
かたあせり。

和歌物語は種冊はまゝく左(よき)かゝる其歌の
つ紙を切く種冊をくくつて歌をかき
乃ち持てて書物とするあり其終る初右の
よあけくまかきつる種冊は是と持てまゝ
とくははくくつてあつてまゝ
よあけくつてあつてまゝ

この物語はまゝくつてあつてまゝ
あつてまゝくつてあつてまゝ
種冊はまゝくつてあつてまゝ
まゝくつてあつてまゝ
まゝくつてあつてまゝ
まゝくつてあつてまゝ
まゝくつてあつてまゝ
まゝくつてあつてまゝ

懐紙まゝくつてあつてまゝ
乃ち一圓大納言基書の作らるゝと和歌物語
まゝくつてあつてまゝ

短冊書よ。上白下白は頼り。文字並べるのこころは
こころ。和歌物語ふらふらと。また蓮院宮 蓮院宮
持明院基孝卿との短冊よ。

不達意

年廻りもはたあつたけり
たつこもたつたけり たつこも

旅意

旅籠うへに宿の野をたがへて
旅籠うへに宿の野をたがへて

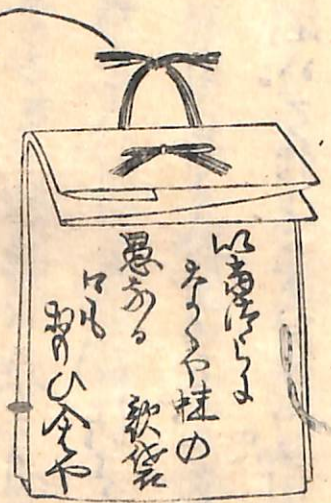
右好ごころのこころは頼り。例あつたけり。たつこも
たつこもたつたけり

秋袋の後に尾院は清和宮よ。たつこもたつたけり

秋袋の後に尾院は清和宮よ。たつこもたつたけり

秋袋の後に尾院は清和宮よ。たつこもたつたけり

秋袋の後に尾院は清和宮よ。たつこもたつたけり



和歌物語の
秋袋の
たつこもたつたけり



秋袋の後に尾院は清和宮よ。たつこもたつたけり

經冊之紙。亦用之。其法。世。近。世。何。人。
以。心。之。算。為。世。所。經。冊。所。制。經。冊。狀。如。摺。葉。
乃。經。冊。之。本。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。

後。在。皇。院。藏。之。聖。一。尺。寸。七。分。摺。一。寸。五分。又。聖
聖。一。尺。寸。四。分。摺。一。寸。七分。又。聖。一。尺。寸。四。分。摺。一。寸
六。分。又。聖。一。尺。寸。四。分。摺。一。寸。五分。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。
其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。其。法。亦。用。之。

定家公の御説なり。國守の御説なり。一。...

重頼乃宮保田川御遊乃時。高田の人。...

人をあつとも。もひらら。...

永正四年閏十月一日の條より

自深の古来の音。基音状が。...

也。有歌

心ある。君あり。...

あはれ。...

彼女云歌。一。...

日照と云。題をく。...

けく乃木。

君哉。...

ねを月乃色。...

此れ。此外。...

定家公。定家公の御説。...

あはれ。...

貴人の位を尋ねるのいと下なるあり。又
 口をわたりていふ。これあるべし。時應に討つべし。は
 古人の我より貴き人よす。申す所。又いふ。論するに貴き
 の持る人よはる。時かす。び我をを書く。まはる。あ
 ちま。と。て。字。を。ま。は。る。も。名。は。と。と。く。ら。る。も。と。く
 古今著聞集。十訓抄。後。之。事。事。事。事。
 本朝歴史。ある。ま。は。る。い。ま。は。る。い。ま。は。る。
 の。ま。は。る。古。の。西。野。の。者。固。を。ち。ま。は。る。一。文。書。あ。る。と。い
 ひ。い。ん。と。い。く。ら。る。が。中。一

上の上書圖の
 名系下野の
 紙の巻はより
 日
 佐藤屋
 佐藤屋

表

信濃國佐藤屋	佐藤屋	佐藤屋	佐藤屋	佐藤屋
一	探	五	時	

表

其	森	三	月	十日
				私
				負
				後

図乃がく書たる文あり。を社を名座といひ傳
 たり。あが社を世に傳ふ。に。ま。は。る。ま。は。る。ま。は。る。
 名。ま。は。る。あ。ま。の。ま。は。る。も。と。く。ら。る。も。と。く。ら。る。
 固。境。を。辨。し。て。ま。は。る。ん。は。

其

Main body of handwritten text on the top page, likely a list or index.

信濃國住持家康御願書
一撰書

表 (Table)

貞禄三年三月十日發賣

裏 (Reverse)

Handwritten text below the table on the top page.

Main body of handwritten text on the bottom page, including a large section starting with '上座の上書國の'.



Handwritten text below the diagram on the bottom page.

唐物語

一册

西行上人作

清水洞院入増注

古書六三二此爲年々とて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす

萬葉摘落禁

五册

正木千幹大人解

此書は然も地々して其の如きもの多し
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす

一の巻

二の巻

三の巻

一の巻 地儀の郡

二の巻 地儀の郡

三の巻 地儀の郡

ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす

古今選

本居先生輯

村田並樹大人校

此書は古今選と云ふも古人の文章の
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす

類題和歌構闕

六册

如藤吉風大人撰

古の書は母と云ふも古人の文章の
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす
ありて書ありてありて吾國の王を小とす

古今和歌集新校正 二册

賀茂翁考正
鈴屋翁再訂

うんばり月

小本紙色摺

海峯消息 あり用ひらうはらう 漢字より定まる能わぬ
あることより消息はらうきうこも紙のちじりこまあるはらう

正誤假字遣

懷中一冊 賀茂李鷹原主輯

此書を古本他日本に於て引出さる假字ありしをきく 詞乃
假字をのりいあて引出さる假字ありしを

假字便覽

一冊 大野廣城先生輯

此書對於假字を備へて假字を辨むるの書也
よりま音假字もこれ假字を辨むるの書也
まかひへの音假字もこれ假字を辨むるの書也
はとまかひへの音假字もこれ假字を辨むるの書也

言元梯

一冊 大石千引先生著

此の書は詞元を考ふるに用ひらるる書なり
假字の考ふるに用ひらるる書なり
假字の考ふるに用ひらるる書なり
假字の考ふるに用ひらるる書なり

假字考

岡田真澄 大人著
鵬齋先生 漢文序
濱臣大人 かあ序

此書の假字の考ふるに用ひらるる書なり
假字の考ふるに用ひらるる書なり
假字の考ふるに用ひらるる書なり
假字の考ふるに用ひらるる書なり

正誤假字遣

懷中一冊

賀茂季鷹縣主輯

此書を古本に元日本に記ある集和家抄ありしよりつきく詞乃
仮字をのりいありて引出を不使ありしむ

假字便覽

一冊

大野廣城先生輯

此書對於假字考略後集假字考略と略し種假字ありと
よりま音假字考略と此假字を詳おひひの書假字のふ
まかひへの音假字考略と此假字考略とよりやまきやう
ゆとまきやうの書あり

言元梯

一冊

大石千引先生著

此の書ハ例に之の類を詳お考定めらるるなり
假字の考略に用云々の假字考略ありし詞の云々
假字考略と一切考略ありし考略の假字考略ありし
詳字を考略ありし考略ありて檢出不使ありしむ

假字考

岡田真澄 大人著
鵬齋先生 漢文序
濱臣大人 加序

此書ハ假字考と單書此より考定めらるるなり
法ひ中々其源の考定めらるるなり
ふ寸音の考略ありし考略ありし考略ありし考略ありし
假字考略ありし考略ありし考略ありし考略ありし
人々の考略ありし考略ありし考略ありし考略ありし

新朗詠集

一册

真海柏木先生輯
素堂山本先生校

紙書の初は上段氏本より中傷先の以てあるまでの人物の
撰ひ其時世の成慶と云へては成慶の徳をたふおひするの
をえらびひゆをたふ先者の時世なりとのを春夏秋を日陰
こうつる一本幸集の………
日陰の類と云書せり

歌仙繪抄

一册

藤原正臣先生著
喜多武清先生撰書

此書は先若の家傳及び奇の知と別とに以て編と幸なり
成慶先生の………

元和繪御撰
集外歌仙

一册

一名近代歌仙

是と云けり………
………

岸本由豆流大八著
七佐日記考證

全二册

此書は………
………

更科日記

二册

賀茂真淵翁歌集

小本
二册

橘千蔭翁歌集

小本
二册

平春海翁歌集

小本
二册

歌仙繪

一册

藤原正臣先生著
喜多武清先生撰畫

此書は作者の家傳及び奇の如く歌仙と以て繪を存せり
或は先生のものなりと云ふるを疑ふ

元和歸御撰見
集外歌仙

一册

一名近代歌仙

是の如けきくもうき後水尾の上巻の撰を以て東福門の
小原殿にありと云ふに年寄伝あり終る不伝との説あり附し

岸本由豆流大入著
七佐日記考證

全二册

同

此書は石橋村去とあれき一初とて於て是かる宛りも多
を孝吟の條に變仲阿多梨と云ふ為本原重吉村田とある
有之の條と漸く後あひまきと云ふは況も變本村田を
かて校訂し合ひしべは目元の字とありて一也一因事ある
多し入く中巻にありと云ふべあると云ふ

更科日記

二册

賀茂真淵翁歌集

小本
二册

橘千蔭翁歌集

小本
二册

平香海翁歌集

小本
二册

楊蔭先生手本類

新百人一首かきま

新三十六歌仙かきま

頃よの貝かきま

古今集かき序

山居帖かきま

源氏ゆきう比かきま

大歌所御歌かきま

真草千字文

萬葉新採百首かきま

吳竹帖

湘雲帖

俗用手簡

同先生用筆大中小色々

松花堂瀧本狸々翁手本

六句帖
氣霽帖

紀貫之朝臣の書

右摺

此書ハ堤中納言兼輔の家族を紀貫之の書く事
稀に傳へらるるを板本ありきる之
仮字を法よく記す
うごかしたる也

屋代先生書艸書千字文 石摺

援山先生音庭訓往來 二冊

天民先生書赤壁賦并千字文 石摺

龍澤先生行書小學題辭 石摺

新撰諸名家畫譜 全二冊

對先生畫譜

山水之部 五册

此畫譜八卷字光明法大衆の画法ハ物極圖論至終の中より者衆の意ヲ採用シテ西本有るニ要ス
概ト本畫本ニテ之ヲ用ル

同

先生畫譜

人物花鳥之部 三册

金生樹譜

三册

長生舍主人編

此書ハ草木樹木の描法を以テ其の本の姿を寫シテ其の意を以テ之ヲ用ル
人ハ必ズ其後ノ人ニテ其書有

松葉蘭譜

一册

此譜ハ松葉蘭の描法を以テ其の本の姿を寫シテ其の意を以テ之ヲ用ル
松葉蘭の描法ハ其の本の姿を寫シテ其の意を以テ之ヲ用ル

幼稚畫手本

一册

柳烟堂主人筆

古今名馬圖彙

繪本金剛傳

繪本勇士鑑

繪本武者揃

繪物畫手本

名家畫譜 三大册

繪本手引種

繪本百物語 五冊

繪本三國妖婦傳

上編 五冊
中編 五冊
下編 五冊
合十五冊

此書は萬葉山妖婦の故事あり世に傳ふ事ありしより
玉藻の前の後をとり作者は海鏡大洗秋の書あり

抱一先生畫譜

一冊 彩色入善本

日光山誌

五冊 植田孟緝編

當 御山の御事ハ今も傳ふ事ありもあはれと奥大を
神國の御事ハ極めたり一冊也
流澤の御事ハ今も傳ふ事あり

神國正奉祀あはれは正奉祀の御事ありしより
神國正奉祀の御事ありしより

あし今此書の作者 御事ありて也
あし今此書の作者 御事ありて也
あし今此書の作者 御事ありて也

御事ありしより
御事ありしより
御事ありしより

繪本三種

繪本百物語 五冊

繪本三國妖婦傳

上編 五冊
中編 五冊
下編 五冊

合十五冊

此書を寫し出せるの校字多し其字と非初るこあるもの
五藤の前の後本をとり依る如く後長大流砂の書あり

抱一先生畫譜

一冊

彩色入善本

日光山誌

五冊

植田孟縉編

青柳山の御事ハ公儀より御座りともあられと大を
此の書は極めごとく一冊也 延喜十年 事知由ありて
此の御事なるかよき本もあらず

神廟と奉祀ありては在殿に候ふるありては御座り候ふ
神皇正統記より考すといふもまことに玉皇の御事なり
あり今此書の作者 實は御座りて也 山本と云ふは
ありては神皇正統記の御事なるも御座りては
是れより更に御座りては 實は御座りては
是れより更に御座りては 實は御座りては

作者の考公を云ふ形よりして考人の御事なりては
此の書は考公を云ふ形よりして考人の御事なりては
此の書は考公を云ふ形よりして考人の御事なりては
此の書は考公を云ふ形よりして考人の御事なりては

松をかしに書きの 御事と云ふも
御山の御事と云ふも 御事と云ふも
御山の御事と云ふも 御事と云ふも
御山の御事と云ふも 御事と云ふも

御恩成最なるを奉の御事なり
御恩成最なるを奉の御事なり
御恩成最なるを奉の御事なり
御恩成最なるを奉の御事なり

畫不勳功草前集 十冊 山崎知雄大人輯 喜多武清先生画

此書は古今の英雄豪傑の伝記を収めて、書法と古筆に
日本紀以下今昔物語に後述の源義隆東照古事紀本
教十部の間史記史記紀紀七巻と一巻より不巻の
既をすし、えを傳す又、一巻より一巻より童子書といふも
一巻の巻をすしむるものなする古にすあらの一巻といふも
たぐく且酷く丁度巻の妙子すうむ教部の一巻にたぐひ
教部の一巻と準じたり。一巻の巻をすし、馬くす。其
書よこの一巻は、伝記の巻すす、すし、すきのす、
おとす、後述の巻す、後述の巻す、後述の巻す、
ざるるし、すす、すす、すす、すす、すす、
すす、すす、すす、すす、すす、すす、

後集ハ辺刻止ハ

富士根元記 一冊 鈴木頂行先生校

其の書ハ終木の海流を經歴す、ついで後河の
富士山、お津極のふり、流石のす、有るものおぬく、
あそやどの地をすさづり法さより、すさづり法さより、
河をす、一巻より、一巻より、

古今名物類聚 全十八冊 不昧公著

此書は伝記、秘蔵、名産、漢書、和歌のたぐい、茶
香合、及ひ古切、おとす、す、す、す、
茶道、小抄、ひ、おとす、す、す、す、
おとす、す、す、す、

畫不勲功草前集

十册

山崎知雄大人輯
喜多武清先生画

此書は古今の英偉豪傑の名譽ありし事蹟と古事記
日本紀及び今昔物語に所載の諸賢人東遊古事記本
教十那の因史記史事紀略と徴し、いづれも不勲の
徒をすべし。元来傳記より考へ、其の童子輩といふも
一づひ見せしむらむとせしむる者ありし。一助ともあり
やく且幽と丁庵等の妙子とて、むね教那の画を、たはひ
先師の画と準拠し、其の裏を、或る馬の畫とて、其
畫とこのとて、後器の爲す中、ゆえなきの、あり
おぼすも、後器の武も、後器とも、同日の、ゆゑ、あ
ざるも、いづれも、其の、ゆゑ、なる、を、すべし。

後集ハ地刻仕仕

富士根元記

一册 鈴木頂行先生校

此の書は鈴木頂行先生を、其の、ゆゑ、なる、を、すべし。
富士根元記の、ゆゑ、なる、を、すべし。ありし、ゆゑ、なる、を、すべし。
ありし、ゆゑ、なる、を、すべし。ありし、ゆゑ、なる、を、すべし。

古今名物類聚

全十八册 不昧公著

此書は、後器の、ゆゑ、なる、を、すべし。ありし、ゆゑ、なる、を、すべし。
香合及び古切の、ゆゑ、なる、を、すべし。ありし、ゆゑ、なる、を、すべし。
常道小抄の、ゆゑ、なる、を、すべし。ありし、ゆゑ、なる、を、すべし。

紫蓮數寄屋起繪圖

前編 四十五枚
後編 四十五枚

此書ハ諸名家の好まばハ数寄屋の造り方を
必まわくくくくくたる必なり

新刀問答

全二冊

俳諧發句題叢

全四冊

椿丘太節翁輯

此書ハ和歌題林抄をとりて近代の作家二十
七人の發句をとりて巻首の圖をとりたる
各巻の名をとりてあぶなり

梅室家集

全二冊

梅室先生自撰の集也

同附合集

全二冊

俳諧千五百題

全二冊

禾葉俳諧集

全五冊

双雀菴禾葉翁家集也

俳諧發句朗詠集

全二冊

此書ハ和歌のありて各同くうくふたば百題を
あつめてくく各の風骨あるくく成示さんぐく
此書の評ある發句と集めたるなり

今人明題集

全二冊

双雀庵氷壺翁輯

此書ハ天保の初より世のくくたる各の秀句を

新影ありて白装の一冊
〜
〜

芭蕉發句小鏡 一冊

雪中菴蓼太翁述
門人 三騎著

けしき、發句、素下、方、の、と、新、句、を、ら、ら、ら、と、ま、て、作、ら、れ、
仕、之、の、心、を、ら、ら、と、ま、て、作、ら、れ、

瀧本猩々翁三十六歌仙

全一冊

千蔭翁三十六歌仙

全一冊

同玉樟帖

全一冊

同真砂帖

全一冊

古今和歌集

中本 二冊

活用指し表

百人一首かるた

彩を指上中下

其外古今集伊勢物語源氏物語の歌かるた
出来合

江戸大節用海内蔵

全二冊

繪本大和錦

初編 三冊
二編 三冊

近代名家画帖

三編 三冊

芭蕉發句小鏡

一冊

雪中菴蓼太翁述
門人 三駱著

付書、發句、案、方、の、と、紙、向、を、さ、ら、り、と、ま、て、作、れ、仕、立、の、心、を、わ、か、す、と、も、お、も、つ、る、出、来、り

瀧本程々翁三十六歌仙

全一冊

千蔭翁三十六歌仙

全一冊

同玉樟帖

全一冊

同真砂帖

全一冊

古今和歌集

中本

三冊

活用摺出表

百人一首かるた

彩之指上中下

其外古今集伊勢物語源氏物語の歌かるた
出来合

江戸大節用海内蔵

全二冊

繪本大和錦

初編

二編

三冊

近代名家画帖

三編

三冊

可菴画藪

一冊

喜多武清著

繪本鷹鏡

初編 二冊

三編 三冊

狂齋先生畫譜

全一冊

英雄畫史

彩色摺 一冊

麻疹必用

小本 一冊

付書ハけりりの小南方と記しるるをあり

史記論文

晋陵吳齊賢評點

全廿五冊

題畫詩類

小本

四冊

菱湖先生校

此書ハ唐已來画圖ニ題シタル詩作ハ千九百餘首類ヲ分チ尤廣ク集録シタル懷中シテ席上ニ便ナル書ナリ

賢乎已

初編 一冊

淀橋井元三無為著

此書ハ雅トナク俗トナク 珍說奇談見ルニ任セ 聞ニ隨ヒ漢文ニ書記シタルナレバ卷ヲ開テ倦コトヲ知ラザル書ナリ

往園遺文

全二冊

鈴木光尚先生輯

可菴画藪

一冊

喜多武清筆

繪本鷹鏡

初編 二冊

三編 三冊

狂齋先生畫譜

全一冊

英雄畫史

彩色摺

一冊

麻疹必用

小本 一冊

付書ハけりらの女南方を記ししるをきり

晉陵吳齋賢評點

全廿五冊

史記論文

題畫詩類 クワレル井

小本

四冊

菱湖先生校

此書ハ唐已來画圖ニ題シタル詩作ハ千九百餘首類ヲ分チ充廣ク集録シタル懐中シテ席上ニ便ナル書ナリ

賢乎已

初編 一冊

淀橋井元三無為著

此書ハ雅トナク俗トナク 珣說奇談見ルニ任セ 聞ニ隨ヒ漢文ニ書記シタルナレバ卷ヲ開テ倦コトヲ知ラザル書ナリ

往園遺文

全二冊

鈴木光尚先生輯

此書ハ香川景樹翁の奇録むくのこと成るを
をく子書より示されたる又は彼所
きて作られたる文の細く成るものなり
しるべき書なり

書状摺稽古

全一冊

此書ハ世の稽古より冠帽喪祭よむるまで
書通文法と記し毎巻の下は稱異の雑語と
輯録し又貴人同輩下輩の文致を差別し
て書し又書格付封状摺状也状并て去折紙
目錄も形律又木の書格もくわくしるべき書なり

野總名話

常盤潭北著

全三冊

此書ハ野總名話の法より名物の由来を
しるべき書なり
たまたま御考の法を考へてあるものなり

革究圖考

彩色摺

大形本全一冊

此書ハ革の類を考へて其の形を
しるべき書なり
革の類を考へて其の形を
しるべき書なり
革の類を考へて其の形を
しるべき書なり

あて他られらるる文の烟を成事ある心く様を
しつと書きたり

書状獨稽古

全一冊

此書は江季の稽古より冠帽喪祭より成るまで
書通の文法を記し毎季の下に稱異の雑考を
輯録し又貴人同輩下輩の文法を差別し
出づるに増書檢付封状檢状旦状并て云折紙
目錄の形律又木の書振もとて二冊に書きたり

野總名話

常盤潭北著

全三冊

此書は野總名話の稽古より冠帽喪祭より成るまで
書通の文法を記し毎季の下に稱異の雑考を
輯録し又貴人同輩下輩の文法を差別し
出づるに増書檢付封状檢状旦状并て云折紙
目錄の形律又木の書振もとて二冊に書きたり

革究圖考

彩色摺

大形本全一冊

世に革の古より武家の装束に及ぶてありし用ひ來るまで
有るも革の須を知る人少し是るに於て書ハ革究の久後と云ふ
天草皮(草子)より革の門徑をあらわす所を撰録し
の草履(草履)の甲革を始とす右名物の甲(甲)の文革と稱し
小の革(革)の各月を右書ありし中(中)の文(文)具(具)も
ありある人少しに見せんはあきくさる書なり

伊勢貞丈先生著千賀春城先生補

軍用記 彩色 圖入 全七册

此書は伊勢安斎先生のうきあつてを千賀先生補
想て右画の事物をとりて改定せしめ先世中流の
目録道中袖多、東金持為帽子、漆巻をとりて甲の部鏡
の形方の事、革多系威毛の事、具足のこと、弓矢の部、
圖、衣、矢、保、名、磨の事、兵、旗、幕の事、馬、具、足、を、亦、る、の、事、
前、突、抜、の、次、を、前、れ、附、の、事、處、状、書、物、持、事、を、武、者、何
種、者、初、級、後、級、解、説、の、事、も、ま、く、も、列、せ、る、事、も、ま、く、も、列、せ、る、事、
七、巻、に、一、つ、る、書、る、事、も、ま、く、も、列、せ、る、事、も、ま、く、も、列、せ、る、事、

武器袖鏡

一册

栗原先生著

此書ハアラユ武器ヲ圖式ニラスシテ且附言ニ兵士ノ事ニ
付精ニ考ヘアリ

武器袖鏡後編 一册

同 著

此書ハ甲半首喉輪ヨリ馬具旗指物等ニ至リステ武
器ノ圖式ナリ

武器袖鏡三編 一册

同 著

此書ハ現在ニ古甲冑五十二種ノ威色ヲ彩色圖ニテ
甲冑製作便ナラン

伊勢貞丈先生著千賀春城先生補
軍用記 彩色 全七册

此書は伊勢安斎先生ののうきあはせし書を千賀先生が補
綴て右画のものをとりぬりて成実とありて先代中流の
目録遣中袖手、東鑑指為帽子、漆色など、甲冑の形鏡
の坊まかの事、革、革、系、威毛の事、具足、のま、弓矢の形、
國府、夫、保、長、慶、の、兵、旗、幕、の、馬、具、足、を、亦、る、の、ま、
前、突、抜、の、次、り、前、れ、附、の、り、感、状、書、状、持、事、の、成、者、洞
遣、者、初、後、遣、解、送、の、事、も、と、も、列、あ、る、毎、つ、か、ま、る、後、
七、卷、の、る、書、る、其、六、委、教、本、へ、お、り、て、終、る、一

武器袖鏡

一册

栗原先生著

此書ハアラ元武器ヲ圖式ニラスシテ且附言ニ兵士ノ事ニ
付精ニ考ヘアリ

武器袖鏡後編 一册

同 著

此書ハ甲半首喉輪ヨリ馬具旗指物等ニ至リステ武
器ノ圖式ナリ

武器袖鏡三編 一册

同 著

此書ハ現在ノ古甲冑五十二種ノ威色ヲ彩色圖ニシ
テ甲冑製作便ナラシム

甲冑圖式

二册 掌中本 同 著

此書ハ武林法量ニ編ニシテ甲冑ノ圖ヲツマビラカニス

弓箭圖式

一册 同 著

此書ハ先生著ハス處ノ武林法量中弓箭ノ一節ヲ武家方カラス見玉フベキ書ナリ

單騎要略

五册 村井昌弘先生編輯

此書ハ甲冑ノ着用故實禪觀衣等付頭盛緒ノナリ此書旗ノサシヤウ等マテオク圖ヲ説ケテ詳ニサトシ手ニ擲ル處ノ鎗刀器械 至令テ其故實ヲ明カニシ一騎前ノ要領盡セリ武家方ハサナリ有職ノ學シ玉フ人ハ必坐右ニ置ベキ書ナリ村井先生ハ神武地精武學先入等ノ作者ニシテ其名高シ

校正 鍛石銘早見出

尾關永富大人撰寸珍 上下合本二册

此書ハ大寶中ノ天國ヲ始トシテ今ノ世ニ至ルマデ千餘年ノ間鍛冶ノ銘ヲ輯録シ殆一萬三百六十餘工ニイタル古刀七十六百八十餘如 此多銘ヲ集シハ末世ニナキ也方々新刀二千六百八十餘ナラズ見出ニ速クランカタ銘ノ頭字ヲいろは分ニナシ長銘二字銘ハサナリ年号彫リシホドノモハ其年号ヲ頭シ年号ナキモ其時代ヲ考ヘ年紀ヲ施シ父子兄弟子孫ヲ紀シ且梵字ハ治工ノ信心ノ歛スル處ナレハ是等ヲ頭シ亦甲冑ハ我身ヲ護ル第一ノ要具ナレハ卷末ニ妙珍家早乙如家等ノ家系并ニ鑑定ノ次第ヲ附録ス御武家方ハ云モサナリ武器商ノ家々モ片時モ坐右ヲハナサレザル珍宝ノ書ナリ

古刀 新刀 目利早手引

同撰

兩面摺

此書ハ及紋ノ掟又ハ時價或ハ切レ物并様ノナド顯シ初學ノ便リニ上ナキ珍書ナリ

古刀 新刀 相撲取組

同撰

同

古刀 新刀 真正假覽

同撰

折本

此書ハ古刀新刀ヲ銘中心銘ハ云々及及紋鈍ニ至ルマテ真正ノ儘ヲ寫セシモノナレバ此圖ヲ見覺ル時ハ正作ヲ見テ空所ニ夫レノ作ト知ル一而捺ノ人ニ逢ガトシ又及及圓形ヨリ出ルラ圖ヲ以テ頭シ且疵ノ用捨或ハ目利會ノシヤウ又ハ當同前并實ニ珍書ナリ

掌中 寶刀銘鑒

一冊

巨槓園輯

此書ハ先ニ銘盡數多アリトイハ其ト事替リ當 同前 專兩作一傳ハ次第珍敷作人其外吉野年号打作人又文中心銘廣袂帽子ノ箇條此煮鷄同造リノ様子并彫物ノ次第鑒定會ノ札答ヘヨリ致シ鍛冶ノ官名作人位列鍛冶ノ系圖并名寄等ニ至ルマテ委ニク辨シ難キ圖ヲ出シ疑敷事ハ載ズ奇大ノ珍書ナリ

武家用文章

一冊

此書ハ武家方ノ久季ノ用向ノ切紙ヨリナリト云テ初ニ其ノ居ニ結杖裏白物ヲ結納代ノ目録ハ然ルモ巨細イテ一ノ章ニ小ヨリテイテ一ノ章ノ遠ハありとも大クこのエ

歷代帝王承統譜

折本

紀藩春川先生校閱

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルヲスル漢土歷代承統ノ主ヲ系譜ニ作りテ歴史ヲヨムモノニ使リス

草聖彙辨

八冊

清朱迦陵先生纂辨
皇國水根文忠先生校字

漢土ニテ歷代ノ草法ヲ集メタル書數多ク中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ヨリテ字ヲ索ムシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ビ玉フ君子珍ヒヤンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞

四冊

清鄒錫山先生著

此書、清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末季自成ノ乱ノ倡ニ本未ニリ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性爺ノ事實等ノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜

二卷

栗本先生纂

此書一三河魚類凡五十二種ノ圖說ヲアケ卷ニハ河海通在ノ魚類二十三種ノ圖說ヲアケラレタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類性味良毒ノ辨シガ多混シヤクモ此書ヲヨミタハ分明トルシ

爲己執記

一冊

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニシルワザト心得ズ己カ爲ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タルヲ辨シタル書ナリ

歷代帝王承統譜

折本 冊

紀藩春川先生校閱

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルテステ漢土歷代承統ノ主ヲ系譜ニ作りテ歴史ヲヨムモノニ使リス

草聖彙辨

八冊

清朱迦陵先生摹辨 皇國水根文峯先生校字

漢土ニテ歷代ノ草法ヲ集メタル書數多ク中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ二畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ヨリテ字ヲ索ムシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ヒ玉フ君子珍ヒマンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞

四冊

清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末季自成ノ乱ヲ倡シ本末ヨリ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性命ノ事實等ノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜

二卷

栗本先生集

此書一三河魚類凡五十一種ノ圖說ヲアゲ卷三ハ河海通在ノ魚類一十三種ノ圖說ヲアケタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類性味良毒ノ辨シカ多混シヤズモノ此書ヲヨミタハ分明トシ

爲己執記

一冊

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニスルヲ得心得ズ己カ爲ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タルヲ辨シタル書ナリ

老婆心書

二冊

同 先生口訣

此書ハ婦人妊娠ヨリ小兒出生無病ニ成長セシメテ手當温涼調理飲食好惡宜忌等ヲ平假字ニ書シテ心得ヤスカラシム

張氏醫通

廿七冊

明張路玉著編

附本經逢原、診宗三昧、傷寒讀論、

傷寒緒論、傷寒舌鉤、兼證折義。

西音發微

二冊

柳圃先生遺教
大槻玄幹先生著

此書ハ蘭書翻譯時西洋語ニアタレ和音唐音ヲ撰ビ對註仕様ヲ詳ニサトシ西洋字原考ヲ附シタリ

縣居雜錄補抄

一冊

賀茂真淵大人著
長野美波留大人標註

此書ハ有原縣のしるしの書ニ由ルモノナリ其考へはもとより其
とのとありいそふ事もつちよむくみからし考へはもとより
其時大人の標註より又もつちよむくみからし考へはもとより
なる後、其の著のあつちよむくみからし考へはもとより
和漢教百種の書ニ對シテ標註しつちよむくみからし考へはもとより
人々もつちよむくみからし考へはもとより
存ありさしよむくみからし考へはもとより

穂立手引草

一冊

醉吟居主人編

言志録

一冊

佐藤一齋先生著

足利家武鑑

一冊

問鐘先生校

五百崎虫の評判 一册

観世織部太夫校正 諷本百二十番 全十册 同外 近刻

小説土平傳 一册 江戸町鑑 二册 江戸町づくし 一册

袖珍名鑑 一枚 早引二體節用集大成 全册

大寶百人一首紅葉錦 全册 桃花百人一首 全

錦百人一首 書後山流彩色入 全 萬寶古状搦 全

百瀬高貴徳来 全 同みわと名所徳来 全

柳家流高貴徳来 全 実活教童子教 全

廣益諸家人名録

初編 二册
二編 一册
三編 一册

此書ハ文政年間より當時よりあるまで世に
傳ふるに儒學國學武學書畫家職家
義利家學定家文雅他家相家業事
軍番小の類姓氏別号位和會日小ま
えハ一々考へてこれを法名録一たり
入學も六揮毫學定を法一り以て
便利なる書あり

五百崎虫の評判 一冊

觀世織部太夫校正
調本百二十番

寸本薄用

全五冊 同外 近刻

小説土平傳 一冊 江戸町鑑 二冊 江戸町づくし 一冊

袖珍名鑑 一枚 早引二體節用集大成全二冊

大寶百人一首紅葉錦全冊 挑花百人一首 全

錦百人一首 書後山流彩色入 全 為寶古状搦 全

百瀬高賣往來 全 同みろ名所往來 全

御家流高賣往來 全 実活教童子教 全

廣益諸家人名録

初編 一冊
二編 一冊
三編 一冊

此書ハ文政年間より當時よりあるまで世に
つゞきつゞき傷家園學家兵學畫家職家
義利家學定家文雅他家相家業事
軍番小の類姓氏別号位不舎日ホホ
久ハ一々一々一々一々一々一々一々一々
入學者ハ揮毫學定を誇り以て
便利なる書あり

山繭養法秘傳抄

全一冊

此書ハ山繭由種見申う同個申う取やう糸ま由
むしやうの次申う始て織申うの秘傳ま由
入りく果はらうて糸ま由のあはり

裁縫早手引

横一冊 女中必用

此書ハうぶ若の裁方男女守徳法陽子紐の法
一四方三寸のたち申う羽織と下袴と兼袴野袴
合羽とつち夜具又内帯外帯のぬひ方よむま由
ちりめん唐棧純子毛織は面あをどつりりふくま

お城ひるがふあはり裁方縫申う御印記と糸
もつめて裁のすえもたちとんとなくとろ易
出来て袴代糸ま由のまをり

臨時客應接

一冊 未學堂先生秘授

この書ハ先徳様おまをりて糸あはりの用ま由
中々後仕のまをり小田系から地灯の供の支度ま
あはりまをり人の入来ま由物あはりの袋魚万草
あはりまをりてまをり糸あはりま由ひびひ
あはりの入来ま由糸あはりのまをりあはりま由

臣庸たるもえも合つものして旧唐書に料理の
 仕うと又唐系河の湯の事也一昔水の出ず
 使所の素因の水の接揚を唐の阿比と打眺
 御瘵あてくき時の内らひあ研て瘵成
 立時の介抱の事もあまをさるる百系
 平、仮名付してさる易く山出の石住も
 其のえやましく出牙やましくも礼法より事
 規矩をさるるして便利あると世末あまの孫也

勸善忠義傳

全二冊

け書ハ宝曆の頃忠義者と名よす一内田を
 古書五代及ふ事とあやとあてさるる
 みて意態さるる仕のりまをよその徳に
 上の心考あま頼りし若もけ門よりあま
 通俗文に記さる事あり

天皇承統譜

折本 春川源先生 撰

神武天皇以来

此書ハ神代ヨリ
 今上皇帝ニ至ルテスベテ
 皇朝歴代ヲ系譜ニ
 作リテ國史等ヲヨムモノニ便リス

竹



竹



竹

竹

國立中央大學
 大
 6255
 受人
 36 3. 14和



